の雑草における形質進化が明らかになるかもしれない。そして，そのような農地における雑草の形質進化は雑草の防除効率にも影響している可能性がある。実際，農地の競争環境に適応することで，メヒシバはロータリー耕に強い耐性を持つようになっていた。

今後，都市と農地の雑草をモデルとした研究を推進することで，現在進行形の形質進化やその影響を実験的に検証することができると考えられる。例えば，今回報告した草姿の分化は当然メヒシバ以外の雑草でも起きている可能性がある。他の雑草種を対象に草姿を検証することで，都市と農地への“収斂”進化を検証することができる。また，競争環境以外にも，都市と農地では大きく生物的・物理的環境が異なるだろう。例えば，都市と農地では，水分・栄養条件，植食者や送粉者の多さも異なるだろう。これらの違いが選択圧となり，様々な雑草の都市と農地系統で形質群の進化を引き起こしているかもしれない。都市や農地などの人為環境に対する雑草の適応進化を解明することで，進化のプロセスという基礎科学的成果と，雑草のより効率的な管理という応用科学的な成果の両方に貢献できる。

謝 辞

本研究は，文部科学省科学研究費補助金（18K14464）の支援により実施された。

参考文献

Fukano, Y. *et al*. 2020. Contemporary adaptive divergence of plant competitive traits in urban and rural populations and its implication for weed management. J. Ecol. 108(6), 2521-2530.

Kobayashi, H. and A. Oyanagi 2005. *Digitaria ciliaris* seed banks in untilled and tilled soybean fields. Weed Biol. Manage. 5(2), 53-61.

露崎 浩 2005. メヒシバ (*Digitaria ciliaris* (Retz.) Koeler) の形態・生態的諸特性にみられる隣接した生育地への適応的分化 . 雑草研究 50(1), 10-17.

田畑の草種（くさぐさ） 青浮草（アオウキクサ）

（公財）日本植物調節剤研究協会
兵庫試験地　須藤　健一

サトイモ科アオウキクサ属の淡水域の水面に生育する一年草。水田では極めて普通。楕円形の葉のようにみえるものは葉状体といい葉と茎の区別がない。長さ 3~5mm，幅 2~4mm。根は 1 本。通常 1 個から 3 ～ 5 個がつながって群体を形成している。被子植物，単子葉類で，花期である 7 月から 9 月には葉状体側面に盛んに花をつける。花の大きさは世界最小級で 1 個の雌蕊と 2 個の雄蕊からなり，自家受粉でよく結実する。水田などでは本種よりずっと大きく，葉状体が 5 ～ 10mm の大きさのウキクサと混在していることが多い。

本種アオウキクサやウキクサなどのように根を土に下ろさず水面を漂う植物を「浮草」と呼んでいる。「浮草」は水面を漂い風の吹くまま水の流れるままにあちこちを移動しながら生活することから，人の世界でも一つの場所に落ち着かず不安定な仕事であったり生活であったりすることを例えて「浮草稼業」とか「浮草のような生活」とか言う。

そんな「浮草のような生活」というのは昔からあったようで，平安時代の歌人で絶世の美女といわれる小野小町にこんな「浮草」話がある。

古今集巻十八にある小野小町の雑歌。

わびぬれば身をうき草の根を絶えて
　誘ふ水あらばいなんとぞ思ふ

この歌は小町と同時代の歌人である文屋康秀が三河の三等官になって赴任するとき，小野小町に「小町よ，私と一緒に行かないか」と声をかけた時の返事。

歌は「わび住まいの憂き身ですので浮草のように根を断って誘ってくれる水があればそのまま流れていこうかと思うのですが，やっぱり止めておきます」というほどの意味だが，三等官ごときの男とはいっしょに行けないよ，と断った。気位の高い小町であったようで，この歌のその後が「古今著聞集」巻第五に簡単に記される。

「すでに零落していた小町であるが，その後いよいよ落ちぶれて，しまいには山野をさすらったということである。人間の運命の儚さがよく分かる話である。」と。

小野小町にとっては人生そのものが「浮草」であったようである。